中国映秀鎮における地震発生後の集会所の利用実態に関する研究　2022 年 2 月 7 日

―中国四川省ブン川県映秀鎮を対象として―

建設工学専攻(修士課程)　　ME20037　　王（おう）　一丹（いったん）
建築設計研究　　指導教員　　山代　悟

序章

0-1 研究背景

2008 年 5 月 12 日午後、中国四川省汶川県付近を震源とする大地震が発生し、死者約 6 万 9 千人、行方不明者 1 万 8 千人を数える大震災となった。14 年後の現在、中国政府と人民の努力のおかげで映秀鎮の基礎施設建設はほぼ完成するのみならず、被災観光スポットとして経済発展は以前より向上した。日本は中国と同じ地震が多い国であり、地震復興について日本が基礎建設を保証する際には被災者たちの心理的な情況も関心をはらっている。日本の建築家伊東豊雄は「家を失った人々が集まって語り合い、心をあたため合う集会所を作りました」と語っている。それに対し、中国で被災者の為の集会所も建設したが、「温め合う」という建築理念より、娯楽や時間つぶしの場となっている。

0-2 研究目的

本研究では中国四川省映秀鎮の集会所を対象にアンケート調査を行い、地震発生後に行われている生活継続のために、被災者たちの精神的な心配りに注目した。映秀鎮における２つ集会所で管理者や村民にインタビューやアンケート調査を行い、集会所の経営や使用情況を把握する。また、日本の被災地における集会所設計と照らし合わせ、現地調査状況を統合し、集会所設計を提案する。

本研究は生活を快復する一方，過去の震災復興の経験を教訓とし，未来の被災者のための生活再建支援や政策に生かすことを目的とする。

0-3 研究方法・分析方法

0-3_1 文献調査と現地調査

「調査１」四川大震災・ブン川県映秀鎮についての文献調査。

「調査２」現地調査を通じ、映秀鎮で３つの村を抽出し、集会所の利用実態を記録する。

「調査３」集会所の管理者や村民へのインタビューとアンケートし、不足点を明らかにする。

「分析１」日本における被災地の集会所を抽出し、建築空間を分析する。メインの空間要素を抜き出す。

「分析２」現地調査のデータをまとめ、分析する。その上で、日本の集会所を照らし合わせ、設計を検討する。

「設計」映秀鎮で敷地を選び、集会所設計を提案する。

第１章　四川大震災・ブン川県映秀鎮

1-1 映秀鎮の発展歴史と地震の被害状況

1-2 中国政府の救難措置

1-3 映秀鎮地震復興計画

図１　映秀鎮詳細整備計画（出典 新理想主義５ 同済規計年鑑）

第２章　現地調査

2-1 映秀鎮と所属村のデータを整理する

名称		面積（平米キロ）	タウンに距离(キロ)	戸数	(*常住) 人口	集会所（数）
映秀鎮		387.74		8081	8029	
	中灘堡村	22.68	0	438	*1495	図書室*1 活動中心*1
	秀坪社区	データなし	0	1469	4156	活動中心*1
	漁子溪村	25.85	1.5	304	1018	村民委員会*1
	黄家院村		9.6			
	東界脳村		7.5			
	一碗水村		13			
	桃カン村		27			

表１　映秀鎮と所属村の基本状況表

2-２３つの村を選定する

中心街までの距離により、秀坪社区、中灘堡村、漁子溪村を選定し、現地調査を行う。

図２　平面図（秀坪社区、中灘堡村、漁子溪村）

2-2　集会所についてデータを測量、統計する

	主要用途	立地条件	运营	营业日	利用者数
秀坪社区	集会所	民家	無料	ほぼ毎日	２～４
中摊宝村	集会所		有料	ほぼ毎日	１０～３０
映秀东村	图书角		無料	ほぼ毎日	０～３
漁子溪村	村委会		無料	不定期	０

表２　集会所運営の基本状況

2-3 アンケートの概要

調査の日時	2021 年 12 月 18 日～2021 年 12 月 26 日
調査の対象	四川省アバ・チベット族チャン族自治州汶川県映秀鎮居民集会所
調査の目的	中心タウンにいる村で（秀坪社区、中灘堡村、漁子溪村）、集会所使用情況や居民の生活状態を把握する
回答者	集会所管理者、使用者及び映秀鎮村民
調査方法	インタビュー、アンケート
回答状況	インタビュー（３人）。アンケート各村５分の配布・回収、回収数は秀坪村２件、中灘堡村３件、漁子溪村２件

表３

2-4 アンケート：表にしめす。

2-5 小結

第３章　日本における集会所設計

3-1 地震発生後に「温め合う」ことの必要性：欲求段階説

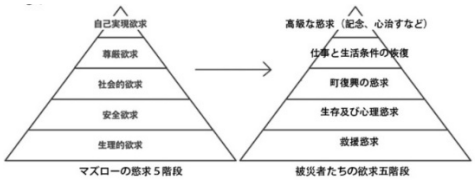

図３　マズロー欲求段階説、被災者欲求段階説

3-2 日本の被災支援「みんなの家」

3-3 分析対象を抽出する

図４　「みんなの家」案例を抽出

（ 出典　「新建築」 ）

3-4 日本における集会所の空間を特徴

	日本における集会所の空間特徴
1	話し合う空間（テーブル、畳、こたつなど、）の多くがワークショップでつくられた
2	飲食空間（ご飯を食べたり、飲み物を飲んだりする）
3	曖昧な空間関係（間仕切りなどの壁がほとんど見られずワンルーム）
4	室内と外の通路には、開口が大きくとられている。

表４

3-5 映秀鎮における集会所の特徴や現存問題

		中国における集会所の空間を特徴
特徴	1	中国の老齢者が飲食より、遊び場が交流しやすい。（麻雀や棋戦など）
現存問題	1	空間構成やファンクションが単一である
	2	子供が遊べる空間が不足である

表５

3-6 小結

第４章　本設計

4-1 対象敷地

漁子溪村

4-2 アンケートやインタビューなど日本集会所の例をむすび、設計の提案をする。

4-3 小結

終章

本研究では四川省映秀鎮における居民集会所の現地調査を行い、地震発生後の生活継続の実態を把握した。日本の地震支援建設を参考し、被災者たちの為に豊かな生活を作っていきたいと考える。今後、他の研究や現地調査などを通じ、中国と日本の復興活動に貢献できるように努力したいと思う。

参考文献

新理想主義５ 同済大学

被災地における「みんなの家」」建設プロセスと運営実態に関する研究」　辻裕太

汶川地震灾后住房恢复重建的法律选择——以“政府-市场“关系为视角 罗登亮村社-四川政务服务网（sczwfw. gov. cn）

映秀镇_汶川县人民政府（wenchuan. gov. cn）